

まちでみつけた



いい顔・かお

まちで見つけた、子どもたちの笑顔を紹介します。投稿写真もお待ちしていますので、役場総務課まで送って下さい。

子どもは地域の宝

～大人の背中～

のどが渴いたので飲み物を買おうとスーパーに立ち寄りました。車から降りると、駐車場の白線の上にジューズの空き缶とタバコの吸殻が山にして置いてありました。気分悪く自動販売機のそばまで行くと、販売機近くの車椅子マークのある駐車スペースにさつと車が入ってきました。車からは女の子を連れた健康そうな若いお母さんが降りてきました。きっとこのお母さんも我が子には「思いやりのある子に育ってほしい」と願っているはずなのに、と残念に思いました。

話は変わりますが、2月に西伯ソフトビ―チバレーボール大会の準備のため、法勝寺中学校に行ったときのことです。学校は、ちょうど掃除時間でした。担当者が職員室に体育館の鍵を借りに行っている間、私は車の中からぼんやりと生徒の様子を見ていました。そこには這うようにして雑巾がけをしている男子生徒と、その生徒に何か話し掛けているもう一人の男子生徒がいました。その様子から「ここはもう拭いたのか？」と聞いているように見えました。鍵を受け取り体育館へ向かうと、体育館周りのコンクリートを掃いている生徒が一人いました。掃除をしながら「こんにちは」と挨拶をしてくれました。遠くに掃除をする先生の姿も見

えました。体育館に荷物を降ろすために何度か往復していると、コンクリートの上に靴についた雪が落ちました。生徒は嫌な顔ひとつしないので、さりげなくまた掃いてくれました。「ごめんね」と言つと「いいえ」と言つて掃除を続けました。体育館の中でも先生と4、5人の生徒が一緒にモップで掃除をしていました。とても静かでした。

私は、鍵を借りに行った担当者に、職員室に先生は何人おられたかを聞きました。担当者の「一人おられました」との返事に、私は「そうだろうな!」と納得しました。そのとき、また別の女子生徒は、私たちが落としたりしいらインターブを拾って、荷物のそばにそつと置いてくれました。お礼を言つとニコツと笑顔で会釈して引き返して行きました。

私が見たのは数人で、わずかに十数分のことでしたが、校舎の中でも同じような光景が想像でき、ふだんから先生方の生徒への接し方がのびる思いがしました。つい最近、「やって見せ、言つて聞かせ、させてみて、褒めてやらねば、人は動かぬ」という言葉を教わりました。子どもがより良く育つには、家庭で、地域で、学校で、まず良いモデルを大人が「やって見せる」のが第一歩だと実感しました。

地域教育担当 唐来 秀夫